

## 1. はじめに.

4月には春らしい陽気に恵まると思いましたが、雪が降ったり、夏のような暑さになったり日本では考えられない天候でした。友達曰く、ロチェスターには春と秋は無く、夏と冬だけだよと冗談めかして話していました。また今月は、Imagine RIT という大学祭があり在校生だけでは無く、一般の方も大勢来ており、とても賑やかでした。

## 2. 授業

ELCのクラスは、どのクラスも最後のトピックに入り、最終テストやプレゼンテーションを行いました。渡米して直ぐのテストで書いたエッセイと今のエッセイを見比べてみると、パラグラフの構成や書き方、文法の構造など全く異なり、留学を通して少しは成長したんだと思います。

Terrorism, Intelligence, and Warのクラスは、911同時多発テロ事件についての講義でした。このテロ事件の被害や報道、国防総省の動きやテロ事件後までの流れを一通り説明受ける形でした。私はこの事件をテレビ越しで見ていたのでとても感慨深いものになりました。

1年間 ELCのクラスを受講し私にとってとても為になった事、これからの課題について幾つかありました。一つは、短いビデオを使って、この状況について文章化することです。この作業は私にとってとても大変でした。状況をメモする事は可能ですがパラグラフの構成を考え、指定された文法構造を過不足なく使用して書くことがとても難しく辛かったです。しかし、数をこなしていくことで自然と文法構造を理解し、自然と書けるようになりました。2つ目は、学習した文法構造を使用して直ぐにオリジナルの文章を作成することです。ただ文法構造について聴くだけではなく、自分でシチュエーションを考え、文章を直ぐに作り、板書して全体でディスカッションするというスタイルは構成を纏めるのに時間が掛かる私にとって大変でした。が、この授業スタイルは自分で考えるだけではなく、ディスカッションを通して洗練されていき、文法構造の解釈だけではなく、Thesis や Main topic の書き方など幅広い場面で役に立ちました。3つ目は、もっと日本の事について幅広く知るべきであると思いました。ELCのクラスは様々な国から学生が来ていることもあり、ディスカッションの殆どは自国ではこんな取組をしているとか、特徴について話す事が多かったです。実際に、日本の中高教育方法や中高のテストスタイル、日本のバスや電車などの習慣、日本のリサイクル事情など幅広く聞かれました。明確に口で説明できなくてもノートやジェスチャーを使えばある程度理解してくれるので何とかできますが、少なくとも日本についての知識を持っておかないと聞かれたときとても苦労します。

## 3. 課外活動

3月末にはオハイオ州の Cleveland でも大会があり、これが留学生活で最後の試合になりました。Cleveland は Detroit が近いこともあって、日本人が多く参加しており、前回の Toronto Tournament よりもレベルの高い大会でした。結果は個人戦(2段の部)で準優勝でしたが、団体戦は混成チーム(RIT, U of Rochester, U at Buffalo)でベスト8まで進めたので、私にとって個人戦よりも団体戦でここまで戦えたことに嬉しく思いました。



図1 Cleveland Tournament

1年間、それぞれの大学の練習に参加しましたがどの学生も剣道を学ぶ熱意は日本人と変わらず、熱心に技術を吸収しようと頑張っていました。今はまだ剣道の技術は日本よりも低いです、この先技術も身に付き、持ち前の体格を活かせるようになった時、今まで日本一強だった世界大会も脅かす存在になると思います。

最後に、各大学の練習に参加させてもらうだけではなく、剣道部メンバーの1人として迎入れてくれたことに嬉しかったと共に剣道を続けて良かったと思いました。



図2 University of Rochester Kendo Club



図3 RIT Kendo Club

#### 4. 留学生活を通して

留学生活を通して感じたことは、どの学生も志が高いことです。皆やりたいことや夢を明確に持っており実現するために物凄い努力をしています。また、よく本大学は課題がとても多いと言われますが、RITは比較にならないほどもっと多く出され、追い付くのに必死でした。

剣道を通じてRITの学生ではなく他大学の学生ともコミュニケーションを取れたことは私にとって大切なものになりました。最後まで拙い英語でしたがどの友達もとても親切で、私の言いたいことを汲み取ってくれるだけでなく、些細な事でも面白おかしく話しかけてくれたり、様々な所に一緒に出掛けたりと楽しく過ごせました。渡米前に考えていた以上に剣道を通じて沢山の人と交流し関係を築けたことが良かったと思います。

#### 5. 最後に

この度の交換留学プログラムの参加及び派遣に対し、交換留学生として推薦して頂いた竹井教授を始め、全面的に支えてくれた、金沢工業大学関係者、ロチェスター工科大学の関係者の皆様に心から御礼を申し上げます。そして、留学することに対して、金銭面、精神面で私の事を支えてくれた両親、姉に非常に感謝しています。常に私の事を案じ連絡してくれたことで、1年間大きな怪我も無くアメリカ生活を送ることが出来ました。本当にありがとうございました。

この1年間は一生の宝物であると共に、この経験を基にこれからも精進していきたいと思えます。

以上で4月の報告とします。